

隠岐島二地点方言の風位語彙と漁場特定語彙 —中村と西郷にみられる地理的環境の比較から—

1. はじめに

日本海における、大陸と日本海沿岸主要地点相互の言語的・文化的ネットワークがもたらすさまざまな伝播現象とそのルートを“海上ネットワーク”と仮設し、その存在を検証し理論化を行うプロジェクトのなかで行った、日本海沿岸、海上島嶼の漁業集落における調査報告である。ここまで灰谷2009、植木・灰谷2011、灰谷2011において行ってきた記述の中で、特に漁場の地理的環境が漁場認識の方法(やまたて・やまあて)に影響を与える事が分かってきた。本稿では、この枠組みの中で、隠岐島の島後における二つの集落の地理的環境差が語彙の差にどのように現れるかを明らかにすることを念頭においた資料報告を行う。

調査地点は、島後の表玄関たる西郷地区と、北東部の中村地区の二か所である。

西郷は、隠岐の島町となった島後全域の中心集落であり、主要港湾と町役場本庁の公的機関が集中する。

中村は西郷から車で40分、距離にして18kmほどに位置する小集落である。近年、第4種漁港として整備されたが、それまでは浜は砂浜であり大規模な漁業を展開できる集落ではなかった。西郷は、一端沖に出れば島前とのあいだに広い漁場が展開する。中村の漁場は海岸にそって展開することになる。



図1 隠岐島前・島後 位置図

1.1 調査の概要

調査をおこなった二地点の調査日とインフォーマントについては以下の通りである。

調査期間2009年10月10日~10月12日

インフォーマント：西郷地区 Y・I氏(T7生91歳男性)

中村地区 Y・M氏(S7生77歳男性)

西郷のY・I氏は小学校卒業後まもなく漁師になり兵役6年間を除いて生え抜きである。中村のY・M氏は戦後材木屋を20年経験の後、漁業、観光船20年。漁協役員・漁労長の経験がある。

2. 風位語彙

2.1 西郷地区における風位語彙

北 キタカジェ ○キタカジェチューデス ワ。(北風と言うですわ)

北西 キタケニシ ○コレワ マタ ホクシェーデス ワナ。キタケニシトカ ノ。キタケノ ニシデスケー ナ。(これはまた北西ですわね。キタケニシとかね。北寄りの西ですからね)

北西 アナジ ○(あなじは)ユーノワ ユーデスケド ネ。ニシアナジトカ ノ。キタアナジトカ ノ。(言うのは言いますけどね。ニシアナジとかね。キタアナジとかね)
北西から南方向に振れる風 ニシアナジ ○ アナジトハエノ アイダガ ニシアナジ。(アナジ(北西)とハエ(南西)の間がニシアナジ)○ニシアナジワ ホクシェー。(ニシアナジは北西)

北西から北より東にふれる風 キタアナジ ○ヒガシニフレル ヤツガ キタアナジ。(にふれるのがキタアナジ)○ヒガシ マワルトキワ キタアナジ。キタアナジワ ホクトー。(東に回る時はキタアナジ。キタアナジは北東)

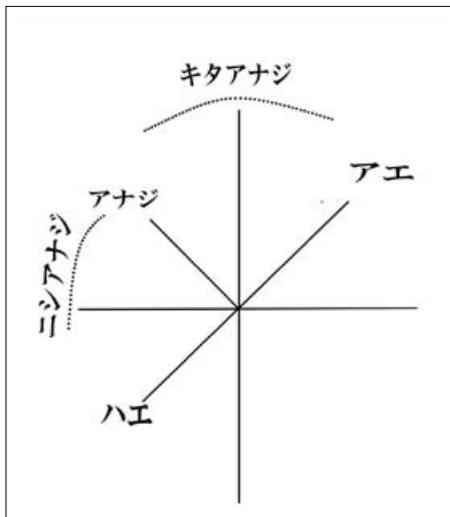
漠然とした北のアナジ タカイケ・タカイカジェ

○キタニナッテ シマッテ マワルアイダオ タカイケ。(北になってしまつて(北方向に)回る間をタカイケという。)○キタオ タカイトカ イッテ、タカイカジェ

ト イッテ。(北を「高い」とか言って。「高い風」と言って) やや北がかった北西風 キタケニシ ○ニシアナジガ キタガカットデスケー ナ。(ニシアナジが北がかってい

ますからね) 一般的にアナジは北西を指すが、図2のようにキタアナジが北東までの範囲をさし、ニシアナジが北西を意味している状況から考えると、アナジは漠然と北方向から吹く風のことをいい、その東よりにまわるものをキタアナジ、西寄りにまわるものをニシアナジと呼んでいるものと推察される。

図2 アナジを中心とする語の幅



- 東 ヒガシ ○ヒガシデ。(これが東で)
- 東 ダイシエンカジェ・コチノカジェ ○ダイシエンカラ オキノクニ クルヤツオ ダシガ フクト ユー。イナバノ モノワ。オキノ モノワ コチノカジェガ フクト ユー。オモニ ハル フク。(大山から隠岐の国に吹く風をダシが吹くという。因幡のものは。隠岐のものはコチノカジェが吹くと言う。主に春吹く)
- 北東 コチ・コチカジェ ○ホデコッチノ ホーガ コチ。コチカジェ ユー。ダイシエンヤマカラ ハル フク。(それでこっちのほうがコチ。コチカジェという。大山から春吹く)
- 北東 アエ ○ホデ ホクトー ユーデショー。コノ ホーデ アエ アエ アエノカジェ。ヒガシノ ホーデスケン ナー。ヒガシト、コレガ キタデスケー ナ。ホクトーデス ワ。(それで、北東というでしょう。このあたりで。アエ。アエ。アエノカジェ。東の方ですからね。東とこれが北ですから(この間が)北東ですわ)
- 東から南に振れる風 イデ・イデカジェ ○イデガ フク チョット ヒガシヨリ ミナミガカッタラ イデガ フク、イデカジェガ フク。(イデが吹く。ちょっと東より南がかったらイデが吹く。イデカジェが吹く)○

コチト ヒガシノ アイダオ ノー。コチワ コチ。ダイシエンカジェ。ヒガシト ダイシエンカジェノ アイダガ イレガ フク。(コチとヒガシの間をね。コチはコチ。大山風。東と大山風の間がイデが吹くという)

南 ミナミ・ミナミカジェ ○ミナミワ ミナミデス ナー。ミナイッショダケ。(南は南ですな。皆一緒だから)○ミナミニ フッタユーノト ニタリヨツタリ。ハエデス ワ。(南に振ったというのと似たりよったり。ハエです)

南西 ハエ ○ハエワ コノ アイダデスケー ナー。コレガ ヒガシデスケー ナー。ナンシエーチューブデス ナ。コレガ ミナミデショ。ニシニ イクマデデスケー ナ。(ハエはこの(南)との間ですからね。これが東ですからね。南西と云うものですね。これがみなみでしょ。西にいくまでですからね) (ハエの季節は?)○サンシガツマエ。イツデモ ネンジュー トーシテ フカン コトワ ナイデスケド ナ。(三月四月前。いつでも年中通して吹かない時期はないですけどね)

黄砂を含む南西風 カスレバエ ○カスレバエトカ ユー。スナ フィテクル。コージンノ ヤツ。シナカジェ。(カスレバエとか言う。砂が吹いてくる。黄塵のやつ。シナ風。カスレバエとか言う)○ハエワ ミナミ。ハルフクヤツ シゴガツフトスナガ。スコーシニシガカカットル。(ハエは南。春吹くやつ。四月五月に吹くと砂が(まじる)少し西掛っている)○カスレバエガ フィタドー。(カスレバエが吹いたぞ!)

西 ニシ ○ニシト ノー。ハエワ コノ アイダデスケー ナー。(西とね。ハエはこの(南)の間ですからね)○ニシワ ニシデスケ。(西は西ですから)

風の南への移動、北への移動と高低の概念

風をタカイ・ヒクイと認識する場合、高いは北方向、低い本土方向を言う。タカケと言え、大陸方面。時計まわりで認識しニシケニフル=東から西に回っていく方向と、ヒガシケニフル=西から東に回っていく方向として考える。

北 キタ・タカイカジェ

- オモニ キタカラ ニシアナジトカ。マッスグ フィテクル タカカジェ。(主に北からニシアナジとか。まっすぐ吹いてくるタカカゼ)
- カジェガタカーナツタ。(風が高くなった=北方向に風が動いた)
- ⇔オモニ ヒガシケカラ、チニフッタトユー。(風が高くなった。主にヒガシケ(東方向より)から地にふった(南方向に移動した)という)

東から西への風の移動 クダリ・クダリケ

○ヒガシカラ クダリチューテ ノ、ミンナオ マトメタヤツデ、ヒガシカラ ニシニ マワル ヤツオ、クダリガ フイタ ユー。クダリケニ ナッタ。アメガフルトキワ ヒガシニ フル デー。ニシニフルデー。(東からクダリとってね。みんなをまとめたやつで、東から西にまわる風をクダリが吹いた。という。クダリケになった。雨が降る時は東に振るぞ。西に振るぞ(という))

南への風の振れ ジニフル

○カジェニ ヨッテワ ヒルワ ジニ フル。ジニフルワ ミナミニ フル コト。ニシノ ホーニ フル コト、ハンタイワ タカー モドク。 (風によっては昼は地に振る。南に振ること。西のほうに振ること。反対は「高くもどった」)

○ジカタノ コトー ジニ フル。ミナミヤ ヒガシケノ コト。(地方(じかたの方向にふく)のことを「地に振る」という。南や東ケ(気)のこと)

春先の突風 ダシケ ○ダイシエンカジェデス ノ。コッチカラ ジカタニクル。(大山風ですね。こっちから地方にくる)

ツガ キューニ クル。ホクホクセーカラ。ジュッポンカ ジューゴフングライデ ヨー カエラント キューニ アル。イマゴロノ フネワ ハヤイ。ムカシワ ロト カイデ ヤルカラ マニ アワン。ジュッセキモ オイテカエリヨータ。ココニ マツシマチューシマガ アッテ ネ。カゲニ ナッテイルノデ ココニ スエテ カエル。

(北沖が棚を吊るといってね。雲が横になびく。雲がくるぞ!とってね。キタアナジくらの方向にくるのだがね。黒い雲が。横に。オチキタというやつが急に来る。北北西から。10分か15分くらいで帰らなければ急にくる。今頃の船は早い。昔は櫓と櫂でやるから間に合わない。10隻くらいを近くの港において帰っていた。ここに松島と言うしまがあってね。影になっているからここに捨てて帰る)

北西の風 アナジ ○アナジ アル ホクセー。(アナジはある。北西)

北北西の風 キタアナジ ○ホクホクセーニ ナルト キタアナジ。(北北西になるとキタアナジ)○(季節的には?) ジューガツスエカラダ ネ。ニガツマデ。ダイタイネ。

(あれ?) コレガ イチバン キタカラ ネ。キタアナジガ キューニ フクシ ネ。シケデス。(10月末からだね。二月まで。だいたいね。これが一番荒れる。北からね。キタアナジが急に吹くしね)

西北西の風 ニシアナジ ○ニシアナジモ アリマス。(ニシアナジもあります)

北東の風 ナカチ ○ソイデ コッチ キタデシヨ。コッチヒガシデシヨ。チョードコノホクトーガ ネ。ナカチ。ホクトーガ ネ。(それで、こっちが北でしょ。こっちが東でしょう。ちょうどこの北東がね。ナカチ。北東がね)○ホクトー アイノ カゼワ シガツカラ シチガツ。(北東、アイノカゼは四月から七月)

北東の風 アイノカゼ ○ホクトーワ アイノ カゼ。(北東はアイノカゼ)

北北東の風 キタナカチ ○キタナカチ。(北ナカチ)

東 コチ ○ヒガシワ コチ。(東はコチ)

南東の風 ミナミゴチ ○ソレカラ コッチガ ミナミトネ コッチガ ヒガシオ コチユーカー ネ。ミナミゴチ コノ アイダオ。(それからこっちがミナミとね。こっちが東をコチというからね。みなみごち、この間を)

南の風 ミナミ ○ミナミワ ミナミ。ミナミカゼモ ハルクライダ ネ。

フユワ ミナミカゼワ フカンデス。(南は南。南風も春くらいだね。冬は南風は吹かないです)

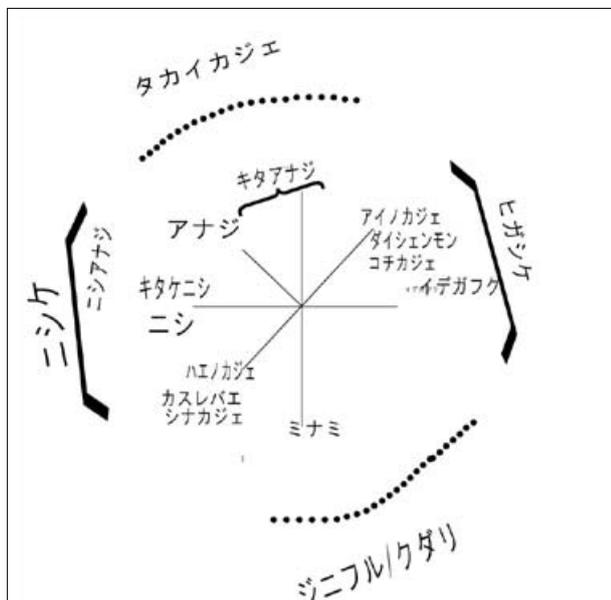


図2 西郷地区における風位語彙

北の風 キタ ○キタワ ジューガツカラワ キタトカニシ。(北は12月からは北とか西。)

冬の北からの突風 オチキタ ○キタオキガ タナオ ツルユーテ ネ。クモガ ヨコニ ナビク。クモガクル ドーユーテ ネ。キタアナジグライニ クルダガ ネ。クロクモガ ネ。ヨコニ。オチキタチューヤ

南西の風 ハイ ○ソイカラ ハイノカゼ。ハイワ ミナミト ニシトノ アイダ。ハイ、ハイ。(それからハイノカゼは、南と西との間。ハイ、ハイ)

南西の風 ハイノカゼ ○フツー ミナミデス。ハイノカゼワ ナンセーニ ナリマス。ナンセー ナルト ナツダ ワネ。(普通南です。ハイノカゼは南西になります)

西の風 ニシ ○ニシワ ニシ。(西は西)

潮や風に合わせて斜行すること マギル ○キョーワ ホクターガ ツヨクッタカラ マギッタ ワイ。(今日は北東が強かったから「まぎった」ぞ)○シオヤ カゼニアワセテ ナナメヤ ジグザグニ イク。マトモニワ ススマナイ。ジカンガカカッテモ アンゼン。ソゲダ。(潮や風に合わせて斜めやジグザグに行く。まともには進まない)

若い世代の語彙の変化

○ワカイセンチョーワ ノーイーストカ イーストカユー。トシヨリワ ツージナイ。サーウエス ホクホクターダ ナンセーダ イワン ワイネ。ムカシノコトバオツカウノワ ワタシラガ ワカイ ホーデス。コチラノ イナカノ ホーデワ ムカシノ コトバデワカリガ エーデスカラ ネ。ヒガシノカゼ トユーヨリ コチトユーホーガ ヒガシトミナミノアイダオミナミゴチトカ。

(若い船長はNorthEastとかEastとかいう。としよりは通じない。Southwest 北北東だと言わないよね。昔の言葉を使うのは私らが若い方です。こちらの田舎の方では昔の言葉でわかりがいいですからね。東の風というよりコチというほうが、東と南の間をミナミゴチとか)

西郷と中村の風位語彙の差異

西郷でみられたようなタカカゼのような北寄りの風・南寄りの風を高低に置き換える認識は今回のインフォーマントには無い。ただし、神部1978による記述によれば近隣の五箇村では、北西の風を「タカカジェ」南風を「ジカジェ」と呼んだ例が示されており、おそらく西郷同様の「北=高い、南=地」という認識があったのではないかと予想される。なお、神部1978ではこの北を「高い」と把握する発想ののでどころについて以下のように記述する。

陸側を「地……」と把握するのはともかくとして、海側を「高……」と把握するのはなぜであろうか。沖天に吹きすさぶ海側からの風の烈しさが、おのずから「高……」の観念を育てたものか。(p616)

筆者の西郷調査時には、前項でのべたように、東から南

にまわるジニフル・クダリの風に対して、西から北に回るタカイカゼを対の概念として説明をうけた。その場の感覚としては、南北の平面的な観念を高低の観念に置き換え、北が高い、南が低いという把握のしかたをしているように思われた。ただ、これも土地人が語彙体系を後々合理化するためにおこなった解釈の可能性もあろう。

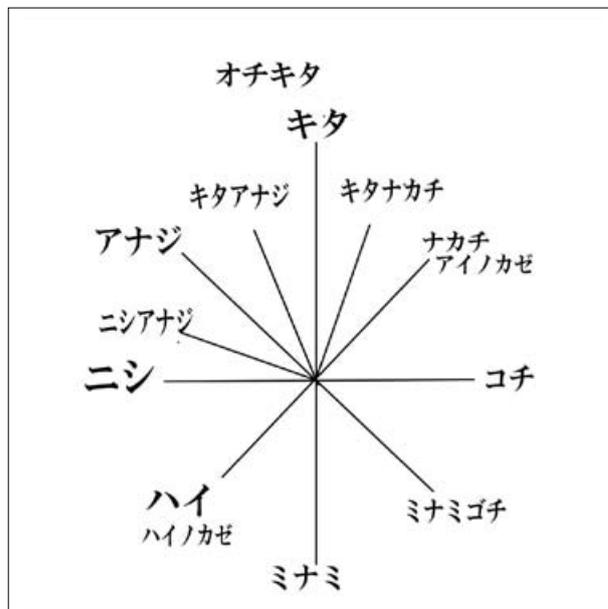


図4 中村の風位語彙 総合図

3. 漁場特定語彙

3.1 西郷地区における漁場特定語彙

西郷は漁場としては榎漕ぎの時代であれば、港周辺になる。沖にでる場合も島前との間を漁場とする。風が悪い場合は米も積んでおいて停泊した。棚や瀬があるところをねらって漁をする場合には、まれに他所へ渡ることもあった。

○コノアタリワ イキナリバツタリ サカナオ トル。(このあたりはいきなりぱったり魚をとる)

このような説明にみられるように、瀬戸内の漁師のような繊細な漁場認識はなく、有る程度広いエリアを特定するためのゆるやかな山立てであったと推察される。

出港時の目標物

西郷は港は図⑤のように、岬に出口を封じられた湾になっている。従って外に出る場合はほぼコースが限られる。港の出入りに関してもっともよく見られる目標物が、港近くにあるプラザ旅館と赤い灯台になる。プラザは山立ての名前にも使われ、後の示すように「プラザーダシ」のような語も生んでいる。

トーダイ

- チカイトコロワ トーダイデ...。(近い所は灯台で)

プラザ

- ワンナイカラ プラザーガデルトカノ。(湾内からプラザ(ホテル)が見えるとか)

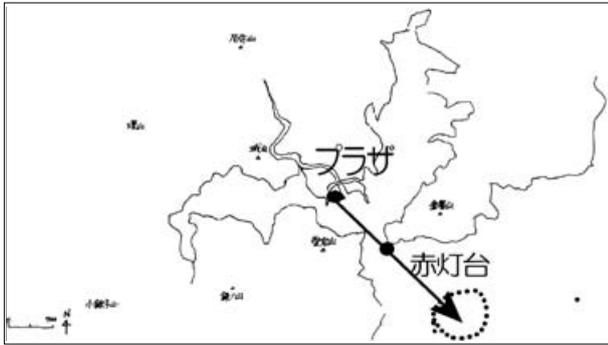


図5 西郷港からの出港

このような出発時の方向を決定する山立てと、沖にでてからの漁場をみるものと二つがある。港の沖合にでたあと、島前の山をみながら漁場へ移動する。

スクモダシ

港から20分ほどのところに位置する。古くはスクモヤマあるいはテンジンサンと呼ばれる場所であったところ、岬の赤い灯台を結ぶ線をみながら船をだす。現在はその前にプラザホテルができたため、こちらが目標となってプラザーダシとも言われるようになった。

- ココカラ ニジュップンクライノ トコロデス。トーダイノ ハナンナランヤナ トコデスケーノ。ヤマデス カイノ。ヤマワ トーダイノ ミサキデス。コノ ナンデ コノ サイゴーワンニ ナルデスケ。コノ アイダオ トールデスケ。ココニ プラザーガ デルデスケ。プラザーリョカンガ デルデスケー。コッチノ アカトーダイ コノ ヒガシノ ヤマニ プラザーガ モッタ トコデスワ。(ここから20分くらいのところ。灯台の鼻にならないようなところですからね。やまですか?山は灯台の岬です。この、なんだ、この西郷湾になりますから。このあいだをとおるのですから。ここにプラザがでますから。プラザ旅館がでますから。こっちの赤灯台この東の山にプラザが「持った」ところです)

- テンジンサンユー ヤマ。プラザーノ オクニ。イマワ プラザーダシ。マエワ テンジンサンガ スクモヤマユー。ダカラ スクモダシト イッタ。メバルヤナンカ トレル。プラザーガ デキタカラ、プラザーオモタシタ テンジンサンガ、ミヤ ガアル トコ。

マツ サシテ、コマイトコ ミタリ。(天神様という山。プラザの奥に。今はプラザーダシという。前は天神様がスクモヤマという。だからスクモダシと言った。メバルなどがておれる。プラザができたからプラザを「もたし」た。天神様が、宮があるところ。松をさして細かいところをみたりする)

オキノシエ

西郷港を直線的に出た場所にも漁場があるが、そこから西に島前を見て島後との間にある広い漁場の中の瀬・暗礁を目指す。このあたりをオキノシエとよぶ。

- オキノシエトカ ノ。コレガ ドーエンデスケーナ。コレガ サイゴーデスケ。オキノセチューワ ヤッパリ コッカラ イチジカンニジカン フツーノ フネデ ニジカンクライ。(沖の瀬とかね。これが島前ですからね。これが西郷ですから。沖の瀬というのは、やっぱりここから1・2時間、普通の船で二時間くらい(のところ))

(沖の瀬を決める時はどれとどれをみるか)

- ドーエンノ ホーオ ナンスルデスケ ナー。コノ ホーガ サイゴノ ミサキデショ。トーダイカラ デテ イクデス ワ。オキノシエデル ワ。タイガイ コノ ミエカクレデス ワ。ホデ ドーエンノ シマガ アルデスケー ナ。ドーエンオ ミルデス ワ。フタヤマ。ドーエンモ ミナ イケンデスワ。ニシノ ホー。

(島前の方をなにするですからね。ここが最後の岬でしょ。灯台から出ていくわけです。沖の瀬にでるのは。大概、この見え隠れするところです。それで島前の島があるから。島前をみるのです。ふた山。島前もみなくてはいけないです。西の方を)

- ココ シマユー ヤマガ アッデスワ。ダイヤモンドカマエテ ホカノ シマノ コシガミエッデスワ。(ここにシマという山があります。大満寺山を後ろに構えて他の島の腰がみえます)

- ジゲヤマガ オクノ ホーノ ムラノ ヤマガ テマエノ ヤマニ デテクルデス ワ。オソイ ヤマ、ハヤイ ヤマ、ココオ ミッデスワ。コッチガ タチマナラ テマエガ タチマ。ムコーノ オークヤマジゲノヤマガ。タチマ・オークヤマガ カサナル。デルトキワ プラザート キレメオ ミテ、コンドワ タチマ・オークヤマオ カサネテ(ジゲ山が、奥の方の村の山が手前の山にでできます)

遅い山早い山(=手前にあるか後ろにあるかで、重なったときの動きが遅く見えるものと早く見えるもの)ここをみます。こっちがタチマなら、手前がたちま。向こうのオークヤマ=ジゲ山が、ジゲノヤマとオーク山が重なる。出るときはプラザと切れ目をみえて。こんどはタチマ・オークヤマを重ねる)

○トーダイノホー ドーゼンガ デル トコデス。ムコーノ ホーノ ヤマ、オーヤマチューガ、ゴンゲンヤマ チューガ コッカラ デテクル。ドーゼンデモ ミツ タカイ ヤマノ ヒトツデスカラ ナ。フタヤマ タテリヤ エー。(灯台の方で島前がでるところです。向こうの方の山、オーヤマ(権現山)というのがここから見えてくる。島前でも三つ高い山の一つですからね。二つの山を立てればいい)



図6 沖合の瀬 = オキノシエのエリア

西郷では、灰谷2011で指摘した山立のパターンのうち、出入港の方向性をきめる山立で、有る程度沖へでる山立を行い、そののち後背地の高い山を目標にしたメインの線にもう1本の線をクロスさせながら漁場を確定していく対馬のような山立の方法が組み合わせられている。

3.2 中村地区における漁場特定語彙

山をみること

12~13ノットの船で二時間も北へでると隠岐の島影は水没してしまう。最後に残るのが大満寺山になる。かつて竹島まで48時間かかっていったこともある。磁石も勿論使し星をみた。北極星や金星をみて方角をきめる。星がなければ出ない。昼なら山たてをする。

【グリ】類

~グリと呼ばれる場所は、ヘサザキ・カサザキのように崎・鼻の地形をみて決める地名と、採れる魚主で名前をつけるものがある。

ヘサザキグリ

○ココノワ ヘサザキグリチューヤツワネ ココノマツト コノ イシマオ アテルトカ。コノ シマカラ ココオ アテルト カサザキグリトカ。((ここはなんという名前?)ノリダバナ。ここのは、ヘサザキグリというやつはね。ここの松とこの石の間をあてるとか。この島からここ(海苔田鼻)を当てるとカサザキグリとか)

カサザキグリ

○コトジマガ アルケン ネ。コトジマノ ハシッコト ココオ アワセレバ
 ここはなんというところ?)カサザキ。ソユト カサザキグリチュート コレト コレトノ アワシタトコト ココオ アワシタトコロガ タイノ バシヨトカイサキノバシヨトカ。スイシン サンジュピロクライカナ。ソーユーマダテワ タクサン アッタ。
 ((なまえはあった?)カサザキグリ
 コトジマがあるからね。コトジマの端っことここ(カサザキ)をあわせれば。カサザキ。そういうとカサザキグリという、これとこれとのあわせたとこ。ここをあわせたとこが鯛の場所とかイサキの場所とか。水深30尋くらいかな。そういう山立てはたくさんあった。(名前は)カサザキグリ)

オーヨーグリ・ツズリグリ・メバルグリ

○オーヨーグリトカ ネ。ツズリグリトカ。オーヨーワ ロクジュッキロカラ ハチジュッキロクライノ オーキナモノガ ソコニ オッテネ イカノ ナマガケオ スルトネ イキタ エサオ ガボートクー。シロミダシ アブラッポイシ。(おーよーという魚は?)クワデネ ブロクッテ キリミニ シテ タベル。オーヨーオーヨー。ツズリグリトカ メバルグリトカ イロイロ。
 (オーヨーグリとかね。ツズリぐりとか。オーヨーは、60kgから80kgくらいの大きな物が底にいてね。烏賊の生がけをするとね。生きた餌をがぼっと食う。白身だし脂っぽいし、鉄でね、切り身にして食べる。オーヨーグリとか、ツズリ(クロソイ)グリとか、メバルグリとかね(とれる魚の場所で名前をつける))。

【ダシ】類

基準線になるものを後背地の大きな山でつくるものが「~ダシ」と呼ばれる。

ダイヤモンド・ワシガミネダシ・ツツラオダシ

○ドコドコダシトカ。ダイヤモンドダシトカ。ワシガミネダシトカト ユー。

ダイヤモンドガ イチバン タカイデシヨ。ソレカラ ツツラオサン ゴヒヤクナナジューゴメートル。ワシガミネチューノガアルデシヨ。コレ ミツツガ イチバン オーキー。ココ ヨコオチューノガ アル。コレ ヨンバン。コノ オーミネ コレガ ゴバン。ツツラオガ ニバンメ。ダイヤモンドオツカエバ ダイヤモンドダシ ツツラオダシトカ ネ。

(どどこダシとか。大満寺ダシとか。鷲峯ダシとか、いう。大満寺が一番高いでしょ、それから葛尾山、575m。鷲峯というのがあるでしょ。これ三つが一番大きい。ここ、横尾というのがある。これ四番。この大峰これが五番。葛尾が二番目。大満寺を使えばダイヤモンドダシ、葛尾ダシとかね)

クロスさせる二本目の線

ダイヤモンド オートニシテネ。ココノ ハナニ アツタリ、ココノ ハナニ アツタリシテ ダスデシヨ。コゲン コゲン。シラシマダキカラ コー アテタリ、カナラズ ヤマワ ニホーカラ ヤラント (大満寺をもとにしてね。ここの鼻に当てたり、ここの鼻に当てたりして出すでしょ。こんなこんな。白鳥崎からこうあてたり、必ず山は二方からやらないと)

漁師同士では語彙を交換することがないので名前は分からないし、自分はつり漁をしないので分からない。おおよその粗見当で山はみるが、近くの島と島を結ぶ線をつくることもある。

オヤマダシ・ゲンダイダシ

○カサザキグリトカ オヤマダシトカ ゲンダイダシトカ ネ。シラシマノ ホーニワ セガ タクサンアルダケー ネ。カサザキ オーキナ イワガ フタツアル。ソノ アイダニ マツガ デル。オヤマダシ ココノ シマト ムスンデ コレオ ムコーノ マツノキ アテル。オーキナ スギノ キト ハナト アタッタ トコトカ ネ。

(カサザキグリとか、オヤマダシとか、ゲンダイダシとかね。白鳥の方には瀬がたくさんあるからね。カサザキ、大きな岩が二つある。その間に松が出る。オヤマダシ・ここの島と結んでこれを向こうの松の木にあてる。大きな杉の木と鼻と当たったところとかね)

樹木などの目標物

(目当てになる松は名前があった?)

○ネコガモリトカ ジンジャンモリガ アツタリ ネ。

ソレガ イマワ マツガ カレタデシヨ。イマワ デンタンデ ヤルデシヨ。ヤマダシナンカワ センデシヨ。

(猫が森とか、神社の森があったりね。それが今は松が枯れたでしょう。今は電探でやるでしょ。「ヤマダシ」なんかはしないでしょう)

磯物の採集漁に用いられる山立

シラシマダシ・スズミジマグリ・アカバカケ

瀬の採集漁でも山をみることは行っていた。

○サザエトツタリ アワビトリデモ ムコーノ シマト シマオ アテテ ココガエー セダトユーノミル。(栄螺とったり、鮑採りでも向こうの島と島をあてて、ここがいい瀬だというのをみる)

○カサザキグリノ ソバトカ、シラシマダシトカ ネ。スズミジマグリトカ ネ。アカバカケトカ チメーガヒヤクモアル。ソレガ チョード ソコ ワカメワココ アワビワ ココト チガウ。(カサザキグリの側とか、シラシマダシとかね。スズミジマグリとかね。アカバカケとか、地名が百もある。それがちょうどそこ、若布はここ、鮑はここと、違う)

以前は、中村は一本釣り漁であったが、底引き網漁が鳥取からやってきたり、延縄漁が山口からきたりして荒れた。船の性能がよくなると漁場も荒れる。瀬につく魚、セモノ(瀬物)のメバル・タイはいなくなった。

参考文献

- 神部宏泰 1978 『隠岐方言の研究』 風間書院
- 灰谷謙二 2009 「出雲地方の漁業集落の風位語彙と漁場確定語彙—出雲市小伊津町方言からみる開放系漁場の特徴—」『尾道大学日本文学論叢』第5号
- 植木香織・灰谷謙二 2011 「長崎県対馬市美津島町方言の漁場特定語彙—ヤマアテにみられる開放系漁場の特徴—」『尾道大学芸術文化学部紀要』第10号
- 灰谷謙二 2011 「漁場の地理的環境と漁場特定語彙」『尾道大学日本文学論叢』第7号
- 島根県農林水産部水産振興課 1999 「しまねの漁場図」(非売品)

(付記)

本研究は科研費 基盤研究(C) 2009-2011「西日本海域方言における“海上ネットワーク”検証のための記述的・理論的研究」課題番号 21520477(研究代表者灰谷謙二)の助成を受けたものである。